

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念の唱和を行い、全職員が理念を共有できるよう努力している。	理念を毎朝の申し送りで唱和している。目の付く所に貼りだす事や、コピーした理念用紙を職員に配布することで意識付けを行っている。更なる向上の為に、理念変更も検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の傾聴ボランティアの方や近くの幼稚園との交流、地域のイベントに参加・見学などを通して地域との関わりが続けられるにしている。	地域の方が専属ボランティアとして、事業所のお手伝いに定期的に来てくれている。今年度は保育園の運動会に出向いて行くなど、地域との交流機会を広げる様にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護事業所の部会に所属し、毎年介護フェアなどのイベントに参加し、認知症や介護についての理解や支援の方法について啓発したり、相談に乗ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の町内会・民生委員さん・老人会町さんなどの参加を得て、活動している。しかしあまり参加率はよくない。	いきいき支援センター職員が毎回参加している。会議ではテーマを変えて勉強会をする事もあり、会議内容は議事録でいつでも見れる様にしている。家族参加を増やすために案内を送付したり、面会時に声を掛けている。	家族の方に多く参加して頂くために、開催日の変更を検討し、家族会も視野に入れ意見交換できる様に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム単独では市町村と連携をとることも少ないが、併設の小規模多機能居宅介護を通して市長村との連携を密にしている。(虐待ケースなど)	港区事業所連絡会、介護フェアへの参加、介護労働安定センター推進事業の受け入れ等、積極的に行っている。認知症家族との関わりや、認知症家族教室の講師を管理者が行うなど、啓発活動にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接身体拘束は行っていないが、エレベーターのロックは行っている。	安全を優先してエレベーターの施錠は行っているが、家族には説明と同意を得ている。職員への理解としてマニュアルを基に管理者から注意、指導を行い拘束をしないケアを行う様にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などを通じて、虐待についての話はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については特に研修などは行っていないが、現在成年後見制度を利用している利用者様がいるの成年後見制度の概要については、全職員に簡単な概要を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書は管理者や計画作成担当者が責任を持って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来られた時など意見を聞いたりし、運営推進会議へも参加してもらっている。	家族からの意見を多く聞き入れる為に、面会時のコミュニケーションを大切にしている。話がしやすい環境作りとして会話をすることで、信頼関係を作る事を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合っている。必要に応じて個人面談をして対応している。	朝礼時や職員会議、個人面談を行う事で、意見や要望、提案を聞く機会作りを行っている。研修などは管理者が職員に合った研修を提供する事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に環境については意見を出し合っている。就業規則などに付いても意見を出し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を定期的に行い(内部研修、外部研修)、全職員がスキルアップできるようにしている。しかし、内部研修は終業後の為参加率が低い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会の施設部会に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントや面接を行い、状況把握したうえで支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や思いに耳を傾け、支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者がご家族様とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いたうえで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に対して適切なケアの提供を実施しており、状況に応じてサービスの見直しを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも様々な場面において、希望を聞いたり意見をもらったりしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り今迄の生活を考慮して支援している。	地元の利用者が多い事もあり、馴染みの美容院に出かける人もいる。兄弟や友達が事業所を訪れ、部屋でゆっくりと楽しい時間を過ごす人もおり、関係が途切れない様に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人数が少ないといっても一つの社会には変わらないので、そのつもりで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限りの支援をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全体を見つめながら、その人の課題や要望を感じ取れるようにコミュニケーションをとっている。	職員は利用者と同じ目線で問いかけて確認し、対応している。伝えることが難しい人は表情や仕草等から察して思いや意向の把握に努めている。また、これまでの事を家族に聞いたり、ホーム独自のシートを参考にしながらケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの情報を把握して支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の把握については、すべて記録して職員全体で周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にのっとりモニタリングを行うようにする。	定期的ではないがモニタリングを行っている。家族の意見、要望を取り入れ、介護計画作成者がプランを立て、職員に意見を聞き一年毎に介護計画が作成され、状況に応じ見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については職員で共有し、良い支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の様々な部署と連携して、課題に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議参加者や、近隣学区の民生委員さんなどと連携して情報を得たりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関と連携して、健康管理に努めている。	入居時にホームの協力医に変更して貰い、往診は月2回で訪問歯科も受けている。専門医の受診の際は紹介状を出して貰い家族が付き添い、職員を通して協力医に伝え連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設小規模多機能居宅介護の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内の医療機関を通じて、適切な対応をして外部医療機関との協働を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在ターミナル期に入ろうとしている利用者様があり、家族、成年後見人、訪問看護師、主治医など関係者と情報を共有し、必要時にモンテラを開くなど方針を共有するため話し合いを行っている。	入居時に出来る事出来ない事を家族に説明し、同意書が得られている。現在ターミナル期に入る利用者については家族、医師、看護師、職員で話し合い連携を取り、ホームで出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内の医療機関と連携して対応している。急変時の対応の仕方などのマニュアルは職員に渡しているが、実践的な訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行い、地震や火災などの災害に関し訓練を行っている。運営推進会議時にも周知し、津波などの避難時に事業所の建物に避難しても良いことなどの協力することを伝えている。	年2回小規模と合同で昼夜想定防災、火災の避難訓練を実施し、職員は避難経路の把握と利用者の移動の訓練を行っている。備蓄品も水、食料、紙類等3日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の個人情報保護についての取り決めに基づいて実施している。	管理者は利用者の尊厳を尊重するような言葉使いやケアの対応等について日々指導している。また、職員も利用者を人生の先輩として敬い、その人その人にあった言葉かけに気を付けトイレ誘導や失禁の際等の配慮ある対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に利用者様の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合をなるべく出さないように、個人個人を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の交換など、常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一諸楽しめるように、準備、配膳等できることはその利用者に合わせ手伝って頂きながら食事をし、後片付けも職員と一緒に進めていたが、現在は介護度も4、5の方が増えており、一部の利用者様に限定されている。	食事は汁物とご飯以外は配食で、トレー、テーブル拭き、おかずのとりわけ等出来る範囲で利用者に手伝って貰っている。月1回食事のレクリエーションでは利用者の要望に沿ったメニューが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作った栄養コントロールされた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表を確認しながら利用者の排泄パターンを把握して、表情や仕草等から察して声掛けを行い誘導している。拒否する人には言葉かけを工夫する等支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望を聞きながら、身体清潔保持のために入浴支援を行っている。	週に2、3回気の合う職員と話しながらゆっくり入浴している。シャワーチェア利用の際は安全の為2人介助で行っている。季節に応じ菖蒲湯、柚子湯の提供や足浴対応の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠がとれるような環境作りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認したうえで服薬管理し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の利用者様の興味や趣味などを伺いながら出来るだけ楽しめる活動がして頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの保育園の運動会や地域の行事に参加する為に外出するのを支援しています。	日常的に外出は難しい条件だが、四季の行事として花見、ラベンダーフェア、ブルーボネット等に出掛けたり、家族と外食、美容院、水族館に出掛ける人もいる。また、地域の行事に積極的に参加する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を実施している方もいるが、ご本人の希望をくみ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんど実施していないが、希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の環境作りは常に心がけている。	利用者と一緒に行った貼り絵やクリスマスの飾り付けは季節感を感じ、利用者を和ませている。利用者が寛げるようにテーブル配置にも配慮がされている。この時期感染症予防で、エレベーターの前に次亜塩素酸のタオルが敷かれ、ノロウイルス対策がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置などを考え、できる工夫を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については使い慣れて物を自宅から持ってきていただいたりして、気持ちよく過ごせるように配慮している。	スッキリと掃除が行き届いた居室には、馴染みの筆筒、椅子、時計、写真、テレビ等が置かれ、利用者本人が生活しやすい環境となるような配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての人に『安心』『安楽』な環境を提供し、心地よく生活できるように支援している。		